

異質で、多様な考えを持つ人と対話をする

一般社団法人アーネスト育成財団
理事長 西河洋一

財団の「風の時代を読む研究会」で、経済学者から世界の経済情勢を聞き、いま世界は「風の時代」への転換が始まっていることを再認識できました。風の時代では、個人、個々の自由と権利、平等性が叫ばれています。経済成長に主眼をおく社会から共生社会、持続可能な社会への移行などが進みます。

新しい時代では、一人一人が主役です。主役になれるには、自分の力で考えて自ら行動しなければなりません。その努力を繰り返すことでパワーが増し幸せが舞い込めます。ポジティブな心で行動する仲間と新たな価値観を見付けることになります。

デジタル化、生成A Iなどのネット社会が到来しています。努力を怠ると、人と人との繋がりが希薄になります。その中でいかに人との関わり合いを作り上げるかが重要な時代となります。

生成A Iの利用が進みます。どこの会社でも既存の情報を収集するような調査の仕事や提出資料の作成などをA Iがやるようになります。事務職員が担当してきた仕事の大半は、無くなります。その結果、人の能力の評価軸が変わります。

現状の階層化し、同質化した仲間だけを集めて教育する偏差値教育が良いのかの疑問が生じています。知性だけ重視して評価しても、その能力は生成A Iに代わっていきます。

社会がその能力を必要としなくなります。嘘をつかない誠実な心を持つ感性豊かな知性ある人と交流したいものです。イノベーションというと、生成A Iではできない創生力が問われます。異質で、多様な考えを持つ人と対話することで創生力が高まります。

争いが治まらない海外の国々をみると日本文化にある「和を持って尊しとなす」や「三方良し」や「利他の心」などを再確認する必要があると考えています。日本語には、自然を、季節を、色合いを、感情を、表現するための言葉が沢山あります。日本人は、皆と仲良くすることができるすごい民族です。仏教と神道もあり、キリスト教もあり、日本には八百万の神がいます。米を主食にしてきた農耕民族の文化です。